

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571800107		
法人名	社会福祉法人達真会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設「ささゆりの家」		
所在地	滋賀県犬上郡多賀町大字佐目675番地		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-55
訪問調査日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「できることの自立支援からやりたいこと的生活支援」という運営方針の下ケアを行っている。日常生活において、利用者様自身ができることはできるだけしてもらうようにしており、また出来る部分が増える様に環境面なども考慮している。その上で、したいこと、やりたいことを利用者様に直接聞いたり、家族様から昔の様子を聞いたりして考え、叶えられるようにしている。家族様に対して、利用者様の様子を頻りに報告しており、また行事や誕生日会などにも声をかけている。大きな行事に参加される家族様も多い。地域との関係も大事にしている。佐目のサロンにも参加させて頂いており、またグループホームの方に来てくださることもある。もともと住んでおられた地域でのサロンにも参加させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ささゆりの家」は山と犬上川の溪流に囲まれた自然豊かな場所にあり「できる事の自立支援からやりたいこと的生活支援」を理念として運営され、利用者のはのびと個性豊かに生活しておられる。設立されて11年を過ぎ、現在は比較的軽度の方の利用が多く日々の生活を楽しむゆとりがあるように感じられる。地域社会との交流もさまざまな形で行われている。地域の夏祭りが無くなったので、区長に法人の夏祭りの実行委員になって頂き、地域住民の方にやぐらを組んだり露店を出したり楽しんで参加して頂く中で、菊の盆栽を沢山届けて下さったり、ペランダにある菜園に野菜を植え、収穫まで面倒を見て下さったりと自然な交流が出来るようになってきた。利用者も地域の文化祭やサロンに参加している。特にグループホームの防災避難訓練では地域の住民とさらに連携を深めようと今企画中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できることの自立支援からやりたいことへの生活支援」の理念のもとケアを行っている。ケアプランにも大きく「やりたいことをかなえよう」と書いてあり、それを中心にケアプランを立てている。	「できることの自立支援からやりたいことへの生活支援」という理念は法人全体のものである。職員に都度意識して欲しいという考えのもと、1人ずつ1字を筆で書いた大きな習字が特養の入り口に掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のサロンに参加させて頂いている。またサロンの方もグループホームの方に来られる事がある。もともと住んでいた地域のサロンに参加する事もある。	地域の自警団に入り職員が活動に参加している。事業所の夏祭りには運営推進会議委員の区長に実行委員になってもらい、地域の人にやぐらを組んでもらったり、露店を出してもらうなど交流を深める取り組みをしている。	グループホームの防災避難訓練に地域の住民の協力を得る方法を検討中である。実現することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で行われているキャラバンメイト(認知症啓発)に参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の様子など近況を報告し、それに対する意見を頂いている。それをケアに活かしている。	2カ月に1回開催され、事業所の運営や行事等について説明し協力して頂けることはお願いしている。委員である区長の紹介で地域のサロンに利用者が参加している。地域と連携しての防災避難訓練を検討中である。	運営推進会議に参加している地域の人には区長だけである。事業所を理解して頂く窓口と考え、地域住民の参加をもう少し増やすことはできないか検討してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜報告を行っている。	地域包括職員に運営推進会議に参加していただき、事業所の説明や報告をしている。それ以外にはあまり連携は無い。	事業所が抱えている問題をどんなことでも相談し現状を知って頂くことで情報を共有し、町の担当者との連携を深め協力関係を築くよう取り組んで欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを意識し、現在拘束は見られない。	月に一度法人の身体拘束に関する委員会があり、そこで話し合ったことは全職員に伝えている。まだ入職して間もない職員が、「こんなことも身体拘束になるんやと驚いた」と話してくれた。全員で身体拘束の無いケアに取り組もうとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を持っていないが、虐待が行われないよう職員同士気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用しておられる利用者様がおられ、適宜協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書などと合わせ、しっかり説明を行っている。分からないところを尋ね、理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族様から意見を聞いている。また玄関に意見箱も用意しており、匿名でも意見を言えるようにしている。	意見箱に意見が入っていたことはないが、過去に何回かアンケートも実施した。夏祭り、忘年会、新年会、敬老祝賀会や誕生会にはご家族の参加も多いので意見要望をお聞きし、ミーティングで検討、運営に反映している。	ご家族の心の中のをどうしたら知ることができるか模索中である。もう一度項目など検討してアンケートを実施してはどうかと検討中である。いろいろな取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から運営など意見を聞いている。またアンケートも取っており、意見を出来るだけ集められるようにしている。	月1回開催されるミーティングの前に要望や意見等を書いて出すことになっており、ミーティングではそれをもとに話し合う。職員は意見は出しやすいと考えており、話し合う事で共通の認識をし運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、頑張りが評価される状況を作っている。また適宜面談も行い、フォローが取れる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の紹介や自分で参加したい研修があればそれにも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬グループホーム部会に参加しており、他グループホームと意見交換をする場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良く話を聞き、不安な事にも丁寧に答えている。事前見学も受け付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本的な事を丁寧に説明し、また不安に思っている事など尋ねて少しでも安心してご利用いただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などご利用者様ができることはできるだけしてもらい、ともに生活する、という関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態をよく理解して抱くためにも、受診の付き添いをお願いしている。また昔の話などを尋ねたり、一緒に行事を行ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から住んでいた場所でのサロンに参加している。自宅に帰ることも支援している。	利用者の出身地域の民生委員からお誘いがあり、関係者の了解を得て月1回地域のサロンに参加している。いつもと違うとても良い表情で帰って来られたので、他の利用者にもその出身地のサロンへの参加を計画している。	現在、散髪は施設で実施しているが、なじみの人や場との関係性を継続するという意味で、利用者が行っておられた美容院や、商店での買い物などへお連れすることも検討してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの配置を定期的に変更し、利用者様同士が馴染みの関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に思いを尋ね、それをケアプランに活かしている。	センター方式で得られた情報やご家族からの聞き取りでの情報でその人のことを知ろうと努力している。また毎日の生活の中でご本人から聞き取ったことや感じたことは申し送りノートに記載し、全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料に加え、家族様からも昔の話聞いて情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを作成する時にアセスメントしている。また状態が大きく変わった際は適宜アセスメントを行い、それをケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様からもご意見をいただき、職員全員で話し合っている。	担当職員を中心に「生活を支える計画書」にあるご家族の意見や申し送りノートにある気付いた事などを参考に、必要な場合はその都度職員が集まって話し合いながら「生活を支える計画」を立てたり見直したりしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子をパソコンで記録を入れ、職員全体で情報を共有している。パソコンで必要な情報だけ出してそれをケアに活かす事もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前住んでいた場所の方と連絡を取り合い、地域のサロンに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に施設と提携している診療所の先生へかかりつけ医を変更して頂いている。毎週2回様子を見てもらい、また必要に応じてすぐに連絡できる体制を取っている。	かかりつけ医は施設と提携している診療所の医師に入居時に変わってもらっている。週2回様子を見に来て頂き、なじみの関係が出来ている。歯科は訪問歯科を利用し、専門医の受診が必要な時は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日一回様子を見に来てもらっている。必要に応じて随時連絡し、見てもらえる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接病院で話を聞いたり、家族様に状態を尋ねたりしている。退院時は病院でカンファレンスを行い、情報共有に勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜家族様と話し合いを持っている。話し合いも一回で終わることなく、必要に応じて何度も話し合いを持っている。	入居契約時に「看とりの指針」にそって説明し、施設の姿勢を理解して頂くようにしている。必要に応じてご家族と話す機会を作っている。今までの所、特養へ入所されたり、入院後死亡されたための退所があるが、グループホームでの看取りは経験が無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に二度程度、消防署の職員にお願いして救命講習を受けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年二回避難訓練を行っており、またグループホームだけでも年2回程度避難訓練を行っている。	昨年からの地域の自警団に入り、防災訓練にも参加している。法人で行う年2回の避難訓練とは別にグループホームでも年2回実施、内一回は夜間想定で行っている。地域の人の協力を得ての避難訓練を企画中である。	防災意識の徹底と発災時初期の対応法を消防署の指導のもと周知徹底してほしい。地域の避難場所となっており備蓄はその分も配備している。今後も地域との連携を密にして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関することも周りにあまり分からないように気をつけている。丁寧な言葉掛けを意識している。	食事は全員自分で食べておられたが、お皿の位置を変えるなどちょっとした介助が必要な方もいる。とても穏やかに、さりげなく介助しておられた。	理念にある「自立支援」や「一人ひとりの人格の尊重」等は意識して取り組んでいないと安易な方向に流れやすい。今後も意識した取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全て決めてしまわないように、利用者様の思いを大事に声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人が思い思いに過ごして頂けるように意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで頂いており、また化粧やマニキュアなども要望に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切って頂いたり盛り付けをして頂いたり、その人の力に応じてお願いしている。無理強いとならないような声掛けを行っている。	献立は栄養士がたて食材は近所の店で購入している。下ごしらえや盛り付け等しておられる方もある。誕生日はその方の希望の食事にするようになっており楽しみにされている。味付けも薄味で食べ易く工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や塩分、カロリーなど一人一人に応じたものを用意している。食事が取りにくくなった場合も臨機応変に食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行って頂いている。自分で歯磨きを出来ない方に関しては職員が援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる様に支援している。排泄表を作り、それぞれの排せつパターンを把握し、それをケアに活かしている。	トイレ誘導が必要な方は1名だけである。他の方は完全に自立している方もあり、パットの交換等に手助けが必要な方もあるが、全員トイレで排泄されている。トイレへの誘導もさりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取って頂いたり、起床時に冷たい牛乳を飲んでいただいたりして、下剤だけに頼らないケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入浴の時間、曜日などは職員側で決めて行っている。	一般浴と機械浴があり、半数の方が一般浴を利用されている。入浴時間は午前中で、時間も職員が決めている。週2、3回入浴されており、入浴を拒否する方もあるが、それとなくお連れして入って頂いている。	時間帯や回数など、各自の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲れた時など休憩する時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員それぞれが確認するとともに、必要に応じて看護師と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活として、洗濯物を干したりたんだり、調理の手伝いをして頂いたりしている。強制ではなく、役割として思ってもらえるような支援を行っている。個別に生活歴や今の状態に応じて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に応じて外出支援を行っている。買い物、外食、地域のサロン、花見などにも出かけている。	近くに食材を届けてもらっている商店があり、個別にそこへ行って買い物をすることもある。自分でお金を管理している人は衣類など必要に応じて車で一緒に買いに行っている。また、地域のサロンに参加したり、希望に沿って外食したり、花見に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様に財布とお金を持って頂いている。買い物の際にご自分で支払われるよう支援している。また一部職員で預かって、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取次をしている。子供に手紙を書く機会も持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光などないように支援している。また花を花瓶に入れてテーブルに飾ったりしている。	壁には書き初めのお習字や行事の時の写真が飾られ、あたたかい雰囲気になっている。ソファや食卓の配置も工夫されており、各自、自分の居場所を決めておられるようである。畳の区域にはお仏壇があって、毎夜利用者が中心になってお勤めをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなでそろって座れる場所や、一人だけで座れる場所も用意している。またいつでも居室(一人部屋)で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具などを使って頂ける様に家族様にも説明し、持ってきて頂いている。	各部屋の入り口には大きな表札とその部屋の利用者と担当職員の顔写真や行事の時の楽しい笑顔の写真が何枚か貼ってあり、目印になっている。部屋の中は、住人の家族写真が飾られたり個性のある部屋となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整え、自分の思いで生活できるように支援している。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	散髪を施設内で行っており、馴染みの関係を断ち切ってしまう。また買い物も以前から行っているお店に行くことはできていない。	個別に馴染みの美容院やお店に行けるようにする。	馴染みの美容院やお店についての情報を、ご利用者様、家族様から聞く。お店の確認を行い、車椅子等対応できるかの確認をする。利用者様のアセスメントを行い、移動手段などを検討する。	6ヶ月
2	10	御家族様から意見を聞く機会が少ない。	家族様が気兼ねなく意見を表せるようにする。	年に1度以上アンケートを実施し、家族様からご意見をいただく。また家族様だけで話し合う場も作る。アンケートボックスを玄関に置いてある事を知って頂き、活用して頂けるよう声をかけていく。	12ヶ月
3	4	運営推進会議に参加している地域の方が区長だけとなり、少ない。	地域の参加人数を増やす。	区長と相談をしていき、副区長、民生委員の方たちに参加して頂ける様にしていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input checked="" type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input checked="" type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input checked="" type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input checked="" type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/> ④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input checked="" type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input checked="" type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )